



グループワークを通じた地理資料読解力向上への取り組み

久保, 哲成

(Citation)

兵庫地理, 60:47-55

(Issue Date)

2015

(Resource Type)

journal article

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90003891>



グループワークを通じた地理資料読解力向上への取り組み

久保 哲成

1. はじめに

(1)『高等学校 学習指導要領 平成 21 年 3 月告示』(文部科学省)より

『高等学校 学習指導要領 平成 21 年 3 月告示』(文部科学省)の「第 2 章 各学科に共通する各科目」、「第 2 節 地理歴史」、「第 6 地理 B」(p 44～46)を見ている。

2 内容 (1) 様々な地図と地理的技能

地球儀や様々な地図の活用及び地域調査などの活動を通して、地図の有用性に気付かせるとともに、地理的技能を身に付けさせる。ア地理情報と地図、イ地図の活用と地域調査

2 内容 (1) においては、地図の活用を通して、地図の有用性を理解させるとともに、地域調査を通して、地理的技法を身に付けさせることを強調している。

2 内容 (3) 現代世界の地誌的考察

現代社会の諸地域を多面的・多角的に考察し、各地域の多様な特色や課題を理解させるとともに、〈以下、省略〉。

2 内容 (3) においては、地域を多面的・多角的に考察することを強調している。

3 内容の取扱い (1) 内容の全体にわたって、次の事項に配慮するものとする。ウ地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、討論したりするなどの活動を充実させること。

生徒の地理的事象の解説を論述する力、地理的課題の解決に向けて討論をする力等の言語力の向上も強調している。

以上のように、今回の学習指導要領では、①地図の活用、地域調査を通しての地理的

技法の習得、②地域を多面的・多角的に考察する力、③地理的事象を解説し、地理的課題の解決に向けて討論する言語力の三点が強調されている。

(2) センター試験地理 B の出題傾向

『2015 年版センター試験過去問研究地理 B』(教学社)によると、この 5 年間の本試験問題の出題内容は、読図問題が 83%、知識・文章問題が 17%と分析している。このように、出題問題の内容は、読図問題が圧倒的に多く、知識を直接、問う問題は非常に少ない。知識・文章問題の出題の仕方は、文章正誤判定問題になっているので、この問題数の推移を分析すると、知識・文章問題の数の推移がわかる。知識・文章問題の出題数と割合は、表 1 より、過去 5 年間に於いて、5 問～7 問の間であり、割合に直すと、14%～20%の間で、出題数、出題割合とともに 1/5 以下であることがわかる。

つまり、毎年、センター試験地理 B の本試験においては読図問題が 4/5 以上出題されていることがわかる。

表 1 センター試験地理 B 本試験における文章正誤判定問題の出題数と割合 (過去 5 年間)

年	文章問題	総問題数	割合 (%)
2010	6 問	36 問	17 %
2011	6 問	35 問	17 %
2012	5 問	35 問	14 %
2013	6 問	35 問	17 %
2014	7 問	35 問	20 %

『2015 年版センター試験過去問研究地理

B』(教学社)

この読図問題の種類は、以下の9種類に分類される。

- 1 白地図利用問題
- 2 分布図利用問題
- 3 地形断面図問題
- 4 地形図読図問題
- 5 統計表利用問題
- 6 グラフ利用問題
- 7 グラフ利用問題(気候)
- 8 写真利用問題
- 9 読図による文章正誤判定問題

このセンター試験地理B本試験での出題内容と傾向を見ると、この試験問題に対応できる学力として、以下の三つが必要である。

- ①地図上での位置を認識できる力
 - ②与えられたデータをもとに類推していく地理的考察力
 - ③問題から読み取った情報を、自分の既に持っている知識を結びつけ解答する力
- (3) センター試験地理B本試験を解く

平成24年度(2013年度)地理B本試験の第2問の問2(9)(論文末の参考資料1参照)を解く際に必要な地理的知識と思考プロセスを解説する。

思考プロセス1:「以下の上位8カ国はこのような国でないか」

- ・工作機械生産額→先進国に多い
- ・パルプ生産量→森林資源が多い国
- * 特に針葉樹林が多い北欧やロシア、カナダの生産量が多い
- ・綿織物生産量→発展途上国に多い
- * 綿花生産の多い国に注目

思考プロセス2:「アの地図で示されている国に注目」

- ・パキスタン、インドは綿花生産多い
- ・パキスタン、インドは発展途上国
- ・中国は昔より綿織物の技術がある

- ・中国は経済成長著しいがまだ先進国ではない

思考プロセス3:「イの地図で示されている国に注目」

- ・スウェーデン・フィンランドの北欧の国が上位にある
- ・カナダ・ロシアの高緯度地域の国が上位に来ている

思考プロセス4:「ウの地図で示されている国に注目」

- ・ヨーロッパではドイツ
- ・東アジアで韓国・台湾のアジア NIES がふくまれる。
- ・日本が大きい
- ・「世界の工場」と呼ばれる中国が入っている。

この設問に対して、生徒は自ら持っている知識・情報を活用し、設問に示されている知識・情報と分析・統合しながら、4段階の思考プロセスを通して、

ア→綿織物生産量上位8カ国の地図

イ→パルプ生産量上位8カ国の地図

ウ→工作機械生産額上位8カ国の地図

の解答に至る。

(4) 今、高校地理で求められている学力

以上、今回の学習指導要領で示された地理Bで培うべき学力、センター試験地理Bの出題内容、設問を解答するのに必要な学力をみていくと、①地図、図表、統計の読解力、②複数の統計・情報、地図情報を分析・統合して、一つの地理事象を説明していく力となる。

2. 授業改善への取り組み

(1) 知識注入型の授業からの脱却。

今回の学習指導要領で地理Bが培う学力、その学力を問うているセンター試験地理Bの問題を解く学力は知識注入型の授業では養えない。教師は、日頃の授業を通して、

生徒に、内容知より方法知、羅列的知識より構造的知識、暗記重視型学習より思考力重視型学習に転換していかなければならない。しかし、現在の授業のほとんどは、教師の生徒への講話と板書中心の知識注入型授業が展開されている。授業プリントは、必要な知識を伝えるために、重要な地理用語を穴抜きにして、授業を聞きながら語句を埋めさせる方式のものである。

（２）開発教育の教材活用の試み

地理的思考力、学びの意欲を高める授業への取り組みとして、前任校の兵庫県立伊川谷高等学校において、貿易ゲーム等の開発教育の教材を使って参加型授業を進めていこうとした。

参加型授業を実施すると生徒たちは、板書中心の一斉授業にない、意欲的な姿勢で授業に取り組んだ。しかし、以下の問題にぶつかり、年間の授業において恒常的に開発教育の教材を取り入れることができなかった。

①授業前に、教材の準備に時間と労力を取られるため、校務が忙しいなかで行っている通常授業の前に、開発教育の教材準備をすることはなかなかできない。

②教材の内容から、50 分間の授業で完結しにくいという、各単元にあった、既存の教材がない。また、単元にあった生徒参加型教材を自らの力で開発する時間がない。

しかし、参加型授業で思考力を養い、センター試験を突破できる学力をつけたいと思っていた。

（３）「協同的な学び」からの啓発

授業改善への模索を続けるなかで、出会ったのが佐藤学の「学びの共同体」で提唱している。座学の勉強から、協同的な学びへの転換であった。彼の考え方に啓発されて、私は次のような具体的な取り組みを行

った。

a. 授業プリントの設問の改善

センター試験の問題に対応できる地理学力を養成するために考えたのは、教科書、資料集、地図帳、統計要覧を生徒自らが活用して、複数の地理的要素を統合して、1つの地理的事象を説明できるようにしたいと思った。そのために、教師が見るべきところを、学ぶべきところを示すのではなく、意義ある複数の地理的要素、生徒自らが見つけて、作業をさせたいと思った。現実として、生徒の「地図帳の何ページを見なさい。」と言っても、多くの生徒は、教師の指示に従っていないのである。

そこで、まず、授業プリントの設問立ての改善に取り組んだ（論文末の参考資料2参照）。設問の内容は、センター試験の解答に必要な地理的事象の説明に必要な地理的要因を、教科書、資料集、地図帳、統計要覧から生徒自らが見つける設問と、その複数の地理的要因を統合して解答を見つける設問を立てていった。

これらの設問を解くことにより、教科書、資料集、地図帳、統計要覧の内容に生徒自らが向き合う機会を作った。特に資料集の内容は非常によくできていることを、自分自身が再評価できた。

b. グループワークの導入

改善した学習プリントは、4 人一組中心のグループで生徒同士で解かせている。このグループの構成は、男子 2 人、女子 2 人とジェンダーバランスを考えたグループ構成にしている。男女の並びは、最初は同性が横並びになるようにして、異性を意識し過ぎないようにしていたが、グループワークに慣れてくると、同性をクロスの位置に置くようにした。4つの机は隙間のないようにきっちりと付けさせた。きっちりと付けることにより、同じグループとの意識を

高めさせた。グループワークを取り入れたのは生徒たち自身の力で、協働しながら設問の答えを作っていくことを考えたからである。

生徒たちは、自分で解ける設問に対しては、教科書・資料集・地図帳・統計要覧を読み込みながら、解いていく。そのなかで、分からない設問や、テキストのなかで解答を見つけ出せない時には、同じグループの生徒に尋ねて、答えを見つけていっている。つまり、授業プリントによる生徒の能動的な学びと、グループワークによる協同的な学びが促されていっている。教師の役割は、教え込む教授者としてではなく、生徒たちの学習活動を促す、ファシリテーターとしての役割に変わっていった。

3. グループワーク授業（50 分間）の展開

グループワークで学習プリントに取り組む授業の展開は、以下の通りである。

授業開始

- ・学習プリントをグループ毎に配付
- ・すぐに授業プリントに取りかからせる
- ・授業の最初の余談とか入れない

学習プリントの解答作業（20～25 分）

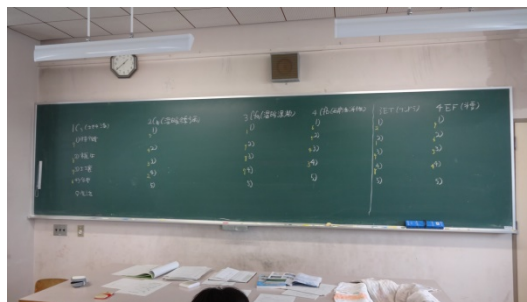
- ・グループで解答を進める。
- ・教科書、資料集、地図帳、統計要覧を使いながら解答する
- ・生徒一人で進められるところは進めていき、分からない設問はグループ内で、ある時は他のグループの生徒に尋ねながら、回答を進めていく。
- ・教師は、机間巡視をしながら、生徒のプリント学習の進み具合を観察する。生徒からの質問にも対応し、ファシリテーター役に徹する。

プリントの解答（10 分）

- ・黒板に解答をする設問番号を白チョークで書くとともに、解答を担当する班

番号を黄色チョークで記す。

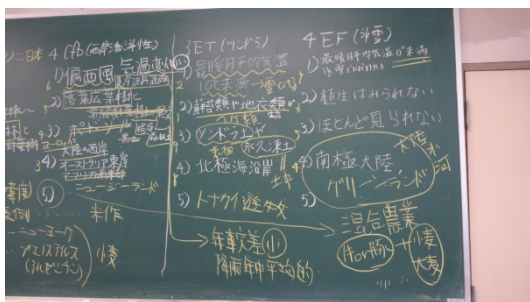
- ・各班で解答の板書をする生徒を決めさせて、解答を白チョークで板書させる。
- ・板書に出る生徒は、板書前に、出席番号と氏名を確認し、板書回数をチェックする。板書回数をチェックするなかで、回数の少ない生徒を見つけ、板書を促していき、全生徒が平均的に板書をするように指導していく。





解答の解説（15～20 分）

- ・生徒の板書した解答を、最後に教師が解説していく。
- ・その際、黄色チョークと赤色チョークで解説を最小限度書き加えていく。
- ・解説の際は、教室に掲示している世界地図を最大限使用し、生徒に地図上での地理的事象の理解するようにしている。
- ・世界地図上で指し示す時には、レーザーポインターを使用し、板書しながら、世界地図を指し示すように工夫している。
- ・基本、1 時間（50 分）の授業で、B4 版 1 枚の学習プリントを完成させる。
- ・完成したプリントは授業の終わりに回収し、点検の後、返却ボックスに入れて、生徒に戻るようにする。



4. グループワーク学習の成果と課題

（1）生徒へのアンケート結果より

生徒たちのグループワークでの学習についての評価を知るために、67 回生（平成 26 年度 3 月卒業）3 年 2 組の生徒 35 名を対象

に 1 学期（平成 26 年 6 月）にアンケートを実施した（論文末の参考資料 3 を参照）。

Q1 教科書を以前よりよく読むようになったか？

- a よく読むようになった・・・15 名（43%）
- b 読むようになった・・・13 名（37%）

Q2 資料集を以前よりよく読むようになったか？

- a よく読むようになった・・・23 名（66%）
- b 読むようになった・・・8 名（23%）

Q4 授業プリントを他の生徒と相談しながら進めるようになったか？

- a よく相談する・・・11 名（31%）
- b 時々相談しながらする・・・13 名（37%）

Q7 グループ学習の方が一斉学習より良いか？

- a 非常に良い・・・9 名（26%）
- b 良い・・・17 名（49%）
- c どちらとも言えない・・・9 名（26%）

Q8 グループ学習に取り組んでの感想

- ・これからをグループワークでの授業を続けてほしい、こちらの方が一斉授業より理解しやすい。（8 名）
- ・プリントの余白を広げてほしい。先生の解説が書きにくい。（6 名）
- ・地理の授業が楽しくなった。（4 名）
- ・席替えをよくしてほしい。（3 名）
- ・設問内容が理解できないことがある。（2 名）
- ・資料集をよく読むようになった。（1 名）

Q1 では、35 名中 28 名、80% の生徒が一斉授業の時より、教科書をよく読みようになったと答えている。Q2 では、35 名中 31 名、約 90% の生徒が資料集を以前よりよく活用していると答えた。Q4 では、35 名中 24 名、約 70% の生徒が、グループ内を中心として、他の生徒と相談しながら授業プリントの設問に取り組んでいることがわかる。

Q7では、35名中26名、75%の生徒が一斉授業よりグループワークの方が良いと評価している。

グループワークの方が良いと評価したことを裏付けるように、記述の感想で、

・これからをグループワークでの授業を続けてほしい、こちらの方が一斉授業より理解しやすい。(8名)

・地理の授業が楽しくなった。(4名)

との感想を述べている。

この学年は、2年生の3学期よりグループワークを取り入れて授業を行ってきた。アンケート結果から、生徒の評価としグループワークを取り入れての授業の方が、一斉授業より良かったことがわかる。

(2) 授業者(教師)の評価

①授業プリントの設問立てを、地理用語を問うものではなく、センター試験の問題に対応できるように問いに変えたことで、プリント作成への教材研究を以前以上に熱心に取り組むようになった。

②生徒が授業プリントに取り組んでいる時に、机間巡視をするので、質問等での生徒との言葉の遣り取りが増えて、授業を通しての生徒との信頼関係を築ける機会が増えた。

③板書に出る生徒の氏名を確認する作業の中で、生徒の氏名を顔を覚える速度が速くなり、生徒との信頼関係を築けるようになった。

④講義の時間が、50分から20分～25分に減り、授業での疲労度が減少した。

⑤授業中、寝る生徒がほとんどいなくなり、指導のストレスが非常に少なくなった。

(3) 生徒の学力の変化

過去5年間の3年生6月に受ける模擬試験(進研模試)の結果を見ると、この5年間の受験者は55名～65名であり、毎年

の生徒が2014年度(67回生)で減った。

偏差値39以下(34以下の層も含む)の生徒の数は、2010年度(63回生)12名、2011年度(64回生)9名、2012年度(65回生)11名、2013年度(66回生)4名、2014年度(67回生)5名となった。偏差値34以下の生徒が、2010年度(63回生)、2011年度(64回生)、2012年度(65回生)で4名、2013年度(66回生)で2名いたが、2014年度(67回生)では0名となった。

つまり、グループワークを取り入れた67回生では、偏差値34以下の生徒はなくなり、全員偏差値35以上の成績をとるようになったことがわかる。また、偏差値39以下の生徒の数も、2013年度(66回生)の時より、1名多い5名であるが、2010年度(63回生)、2011年度(64回生)、2012年度(65回生)の3年間の10名前後いた時に比べると半減近くしていることがわかる。

授業プリント解答する作業を通して、授業中、生徒が寝なくなり、自分で考えながら、他の生徒と協力して設問を解くことにより、知識の定着が図られたと考えられる。

(4) グループワークを取り入れた授業の課題

グループワークを取り入れた授業プリント中心の授業を実践して気づいた課題をあげておく。

①一斉授業より進度が遅くなる。

②設問設定が適切かどうかの検証方法を考えていく必要がある。

③生徒自らが、発表する時間がとれていない。表現能力を高める言語活動を実施できていない。

④授業プリントの作成に多くの時間を取られる。しかし、このことは、教材研究に時間をかけていることになり、悪いことではないが。

〈使用教材〉

帝国書院：『新詳地理 B 初訂版』
 帝国書院：『新詳高等地図 初訂版』
 帝国書院：『新詳地理資料 COMPLETE 2013』
 帝国書院：『地理統計 2013 年版』

〈参考文献〉

教学社編集部（2014）：『2015 年版センター

試験過去問研究地理 B』（教学社）

佐藤 学（2000）：『シリーズ教育の挑戦 教育改革をデザインする』（岩波書店）

佐藤 学（2010）：『教育の方法』（左右社）

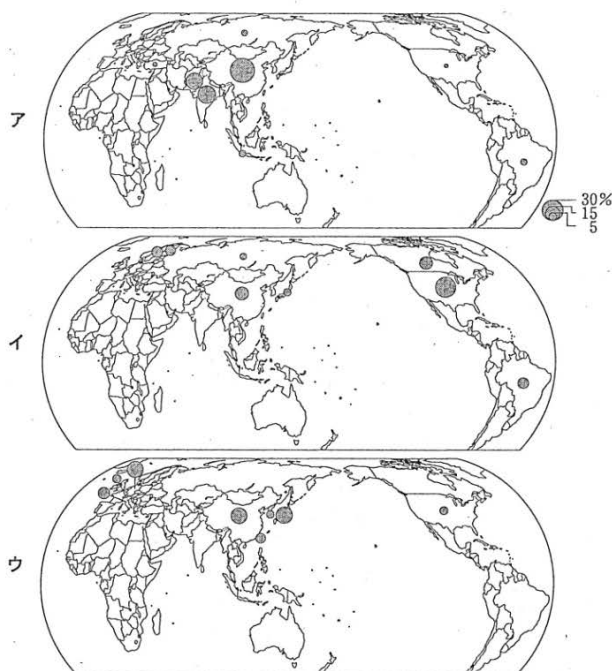
部科学省（2009）：『高等学校 学習指導要領 平成 21 年 3 月告示』（文部科学省）

（くぼ てつなり 兵庫県立柏原高等学校）

参考資料 1

2013 年度：地理 B / 本試験

問 3 次の図 2 中のア～ウは、工作機械生産額、パルプ生産量、綿織物生産量のいずれかについて、上位 8 位までの国・地域とそれらが世界全体に占める割合を示したものである。ア～ウと指標名との正しい組合せを、次ページの①～⑥のうちから一つ選べ。



統計年次は 2008 年。
 日本化学繊維協会『繊維ハンドブック』などにより作成。

図 2

	①	②	③	④	⑤	⑥
工作機械生産額	ア	ア	イ	イ	ウ	ウ
パルプ生産量	イ	ウ	ア	ウ	ア	イ
綿織物生産量	ウ	イ	ウ	ア	イ	ア

参考資料 2

ラテンアメリカの社会・文化

() 組 () 番 氏名 ()

1 以下の民族・人種名を答えよ 図表 p 2 5 4

- 1) マヤ・アステカ・インカ文明を築いた先住民の名称を答えよ。
- 2) 1) の先住民の人種名を答えよ。図表 p 2 0 1
- 3) ヨーロッパからの移民の人種名を答えよ。
- 4) アフリカから奴隷として連れてこられた人種名を答えよ。
- 5) アフリカから奴隷が連れてこられた理由を簡潔に答えよ。
- 6) 2)・3)・4) の 3 人種による各混血の名称を図示して書け。

○ 6) ブラジルは「人種のるつぼ」と呼ばれが、アメリカ合衆国は「人種・民族のサラダボウル」と呼ばれる。その違いを述べよ。図表 p 2 4 8

2 各国の人種・民族構成について 図表 p 2 5 4

- 1) ヨーロッパ系（白人）が 5 0 % 以上の国をすべて答えよ。
- 2) 先住民（インディオ）が 3 0 % 以上の国をすべて答えよ。
- 3) アフリカ系（黒人）が 6 % 以上の国をすべて答えよ。
- 4) 2) の先住民（インディオ）が多い国の地形的特徴を答えよ。図表 p 2 5 2
- 5) 1) のヨーロッパ系の移民が多い国の地形的特徴を答えよ。図表 p 2 5 2
- 6) 5) の地形のところにヨーロッパ系（白人）の移民が多くなった理由を 4) を参考に答えなさい。

3 日系移民について、図表 p 2 5 4

- 1) 日本からブラジルへの移民が始まったのは何年か。
- 2) ブラジル移民の明治政府が奨励した理由を答えよ。
- 3) 日系移民が初期に働いた場所はどこか。
- 4) 1990 年の「出入国管理及び難民認定法」の改正で、日系人には活動制限のない在留資格が認められた。それにより日系ブラジル人の出稼ぎが増えたが、その理由を答えよ。図表 p 165 の「4 産業の空洞化」のグラフを参考に考察せよ。

4 ラテンアメリカの都市人口率の推移の様子を簡潔に述べよ。図表 p 255

5 ラテンアメリカのスラムを何と呼ぶか。図表 p 255

参考資料 3

グループ学習に関するアンケート

○ グループ学習への君たちの率直な評価を聞きたいと思い、アンケートを実施します。
以下のアンケート項目にお答えください。

- Q 1 グループ学習に取り組んで、以前より授業中に教科書をよく読むようになったか。
a よく読むようになった b 読むようになった
c 以前と変わらない d 以前から読まない
- Q 2 グループ学習に取り組んで、以前より授業中に資料集をよく読むようになったか。
a よく読むようになった b 読むようになった
c 以前と変わらない d 以前から読まない
- Q 3 グループ学習に取り組んで、以前より授業内容に興味を持てるようになったか。
a 非常に興味を持てるようになった b 少しは興味を持てるようになった
c 以前と変わらない d 以前より興味がわかなくなった
- Q 4 グループ学習に取り組んで、他の生徒と授業プリントを相談しながら勉強するようになったか。
a よく相談するようになった b 時々相談するようになった
c あまり相談しない d 全然相談しない
- Q 5 グループ学習に取り組んで他の生徒に授業プリントのわからないところを質問するようになったか。
a よく質問するようになった b 時々質問するようになった
c あまり質問しない d 全然質問しない
- Q 6 グループ学習に取り組んで他の生徒に授業プリントのわからないところを教えるようになったか。
a よく教えるようになった b 時々教えるようになった
c あまり教えない d 全然教えない
- Q 7 グループ学習の方が、一斉授業より良いか。
a 非常に良い b 良い c どちらとも言えない
d あまり良くない e 非常に良くない
- Q 8 グループ学習に取り組んでの感想を書いてください

